

単元名 アンサンブルの楽しさ

配当時間 3時間

- 単元の目標 (1) 曲想と声部の役割など音楽の構造との関わりに気付くとともに、音色に気を付け、互いの音を聴いて、音を合わせて演奏する技能を身に付けることができる。
- (2) フレーズの呼びかけ合いや音の重なりを聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、曲の特徴を捉えた表現を工夫し、どのように演奏するかについて思いや意図をもつことができる。
- (3) 曲想や各声部の役割に合った表現に興味をもち、音楽活動を楽しみながら、主体的・協働的に学習活動に取り組もうとする。

標準的な展開例

04070301_001

【教材名】ラ クンパルシータ(器楽) (P. 50～P. 51)

【準備等】範奏CD、鍵盤ハーモニカ、リコーダー、木琴、オルガンなど

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1～3 「ラ クンパルシータ」を、楽曲に合った工夫をして合奏する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○曲想や特徴を捉える。 ★パートの役割を生かして生き生きとえんそうしよう <ul style="list-style-type: none"> ・範奏を聴き、曲の感じをつかむ。 ○鍵盤ハーモニカの1のパートを演奏する。 <ul style="list-style-type: none"> ・休符に気を付けながら、範奏に合わせて階名唱したり運指唱したりする。 ・シャープとナチュラルの意味を理解する。 ・鍵盤で「#ソ」の位置を確認し、ゆっくり練習する。 ・範奏に合わせて演奏する。 ○鍵盤ハーモニカの2パートを演奏する。 <ul style="list-style-type: none"> ・休符に気を付けながら、範奏に合わせて階名唱したり運指唱したりする。 ・鍵盤でレ#の位置を確認し、ゆっくり練習する。 ・慣れたら、範奏に合わせて演奏する。 ○鍵盤ハーモニカの1・2パートを合わせて演奏する。 <ul style="list-style-type: none"> ・クラスを2パートに分け、担当を決めて演奏する。 ・リズム伴奏を加えて演奏する。 ○鍵盤ハーモニカとリコーダーパートを合わせる。 <ul style="list-style-type: none"> ・リコーダーパート1を階名唱して、練習する。 ・リコーダーパート2を階名唱して、練習する。 ・クラスを2パートに分け、演奏する。 ・クラスを4パートに分け、鍵盤ハーモニカ1・2、リコーダー1・2で演奏する。 ・リコーダーの役割について考え、強弱記号をもとに強弱やバランスを工夫する。 ○担当するパートを決めて練習する。 <ul style="list-style-type: none"> ・パートごとに集まって練習する。 ・木琴や低音パートは階名唱し、鍵盤を確かめ、拍ののって楽器で練習する。 ・パートごとの役割について、気付いたことを交流する ○パートの関わり合いや役割を生かして演奏する。 <ul style="list-style-type: none"> ・速さや強弱、音のバランスなどに気を付けて合奏する 	<ul style="list-style-type: none"> ・タンゴという踊りの曲である。 ・重厚保感のある情熱的な曲想を感じ取らせる ・黒板や書画カメラで鍵盤を掲示する。 ・教師がゆっくりと拍打ちをして、合わせて歌ったり演奏したりさせてもよい。 ・スタッカートについて復習する。 ・リピート記号は既習の「お祭りや民ようめぐり」の「おどれサンバ」で学習している繰り返し記号である。 ・楽譜の見方を理解するために、曲に合わせてそれぞれのパートの旋律を指でなぞるとよい ・鍵盤ハーモニカのパートが2つあり、メロディーが掛け合いになっていることに気付かせる。 ・小説の始めの8分休符を意識させる。 ・パートリーダーを決めると、練習が進めやすい。 ・練習できる部屋が複数確保できるとよい。 ・1と2のパートが掛け合いをしていることに気付かせる。 ・主旋律が通るように演奏させる。 【評】音色に気を付け、互いの音を聴いて、音を合わせて演奏する活動を通して「技能」を評価する。 ・最初の合奏は、速さやリズムをそろえて演奏することを中心に行う。 ・同じようなリズムや旋律があるパートを取り出して合わせる練習により、それぞれの役割がはっきりしてくる。 ・互いに音を聴きながら、速さをそろえて合奏させる。 【新出】リコーダー「ソ#」の運指 ・リズムを打楽器で打つパートをつくってもよい。 ・教師がゆっくりと拍打ちをして、合わせて歌ったり演奏したりして支援する。 ・木琴のパートは、階名唱の際から強弱に気を付けるようにさせる。 【共通事項】フレーズ 強弱 【評】曲想と声部の役割など音楽の構造との関わりを捉える活動を通して「知識」を評価する。 ・同じパートで息を合わせるとともに、他のパートの音もよく聴きながら演奏させる。 ・木琴は前半は主旋律であり、後半イからが和音になる。和音部分のクレシェンドの効果を感じ取らせる。 【共通事項】音楽の縦と横との関係 【評】曲想や各声部の役割に合った表現をする活動を通して「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。

- 全員やグループで合奏する。
 - ・ 全員で合わせる。
 - ・ 鍵盤ハーモニカとリコーダーは1パート2～3人ずつ前に出て、ほかの楽器は交代しながら合わせて演奏し、聴き合う。
 - ・ 各楽器のバランスに気を付けて演奏する。

- ・ 演奏する人を交替させ、聴き合ったり気付いたことを出し合ったりさせる。
- 【評】フレーズの呼びかけ合いや音の重なりを聴き取り、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考えながら、曲想にふさわしい表現を工夫する活動を通して「思考・判断・表現」を評価する。

【 備 考 】